科目名:障害児心理学特論Ⅰ	担当者:勝浦 眞仁	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:　本年度遠隔授業対応科目		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
関係発達論の立場から、障碍児心理学についての理解を深める。本授業において障碍を「生きづらさ」と考え、発達障碍や精神障碍、トランスジェンダー、聴覚障碍、慢性疾患など多様な観点から検討する。『接面の人間学』に収録されている論考を輪読し、障碍児心理学に対する深い理解を目指す。特に接面の観点の必要性について共に考えていく中で、受講生の研究の一助となるようにしたい。

授業の到達目標
１、障碍についての考え方（障碍観）を深めるとともに、高度な専門知識（DP）を身につける。
２、障碍のある人と私たちが共に生きることについての汎用的思考力（DP）を高める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
障碍児・者や支援を必要とする人たちなどとかかわった経験がある方が、本講義の理解がより拡がると考えられる。もちろん、これまであまりかかわったことがない方も歓迎するが、授業期間等に職場やボランティア等でかかわってみることをお願いしたい。

評価方法
論文講読の発表（50%）および学期末レポート（50%）に基づき、授業への取り組み等も含め総合的に評価する。発表およびレポートに対するフィードバックを行う。

教科書	参考図書
接面の人間学（鯨岡峻・大倉得史編，ミネルヴァ書房）	随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
katuura@ohakagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション
02	「共に生きる」とはどういうことか
03	保育の場に見る一人の発達障碍のある子どもの生きる姿
04	接面から考える特別支援教育のかたち
05	保育者養成校での＜教える―教えられる＞という関係性の形成
06	関係発達論的な音楽療法における音・音楽と接面
07	接面が立ち上がるとき―「特定」の私と子どもの関わりから―
08	「接面」と集団のダイナミズム―居場所型精神科デイケアの治療
09	トランスジェンダー当事者同士の「語り合い」によって生まれた接面
10	盲ろう者とコミュニケーション
11	慢性の病いとともに生きる
12	生と死の境界を共に生きる
13	接面とはどういう概念なのか―家族の回想録から―
14	関係発達論から考える障碍児心理学のあり方
15	まとめ
16	

2022年度シラバス

科目名:障害児心理学特論Ⅱ	担当者:勝浦 眞仁	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:本年度遠隔授業対応科目		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
関係発達障碍論の立場から、発達障碍に対する理解を深める。『発達障碍のある人と共に「育ち合う」』に収録されている論考を輪読し、発達障碍に対する深い理解を目指す。特に「あなた」と「わたし」との関係から「共に育ち合う」関係および当事者研究について、共に考えていく中で、受講生の研究の一助となるようにしたい。

授業の到達目標
１、発達障碍についての考え方（障碍観・発達観）を深めることにより、高度な専門知識（DP）を身につける。
２、発達障碍のある人と私たちが共に育ち合うことについて汎用的思考力（DP）を高める。
３、発達障碍を巡る当事者研究のあり方について汎用的思考力（DP）を高める

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
発達障碍等の障碍児・者や、支援を必要とする人たちとかかわった経験がある方が、本講義の理解がより拡がると考えられる。もちろん、これまであまりかかわったことがない方も歓迎するが、授業期間等に職場やボランティア等でかかわってみることをお願いしたい。

評価方法
論文講読の発表（50%）および学期末レポート（50%）に基づき、授業への取り組み等も含め総合的に評価する。発表とレポートに対するフィードバックを行う。

教科書	参考図書
発達障碍のある人と共に育ち合う「あなた」と「私」の生涯発達と当事者の視点（大倉得史・勝浦眞仁編，金芳堂）	随時紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
katuura@ohkagakuen-u.ac.jp

01	オリエンテーション
02	発達障碍のある人と共に「育ち合う」関係へ―関係発達障碍論―
03	発達障碍支援のあり方を問い直す
04	発達相談におけるアセスメントと支援
05	木漏れ日―「私」と「私たち」が紡ぐ暮らし
06	療育の場における支援
07	小・中学校における支援
08	特別支援学校における支援
09	高等教育段階での支援
10	成人期以降の支援
11	身体とつなぐ　仲間とつなぐ　－自閉スペクトラム当事者の視点から―
12	まとめ①　発達障碍をいかに理解するか
13	まとめ②　発達障碍のある人と私たちが共に育ち合うとは
14	まとめ③　発達障碍と当事者研究
15	発達障碍研究を通して、自身の研究のあり方を考える
16	

科目名:発達心理学特論Ⅰ	担当者:堀 由里	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
保育・教育現場で接していく子どもたちは、教科書の子どもたちと同じでしょうか。この授業では、発達の理論を自身の具体的体験から再考していくこと、最新の発達心理学のトピックスを共有することを中心にしていきます。授業方法としては、文献を輪読すること、プレゼンすること、ディスカッションすることを行います（AL）。但し、授業計画で示す内容は、受講者の人数や関心により変更することがあります。

授業の到達目標
1）既存の発達理論を心理学の専門用語を用いて、深く理解することができる（DP：専門知識）。
2）最新の発達心理学のトピックスについて、批判的に思考することができる（DP：汎用的思考力）。
3）先行研究を踏まえたうえで、自身の発達観や子ども観を言語化することができる（DP：汎用的思考力）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
輪読する資料は事前に読み、疑問点を整理しておく（準備学修）。
授業内でのディスカッションを再度、自分の言葉で整理する（事後学修）。

評価方法
ディスカッション（50%）、プレゼンテーション（50%）などを総合的に評価する。
日常的な授業への参加態度、自主的・主体的・協力的な学習への取り組みを重視します。
プレゼンテーションに対するフィードバックは随時行う。
また最終回においては、ディスカッションを含めた全体のフィードバックを行う。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育・教育の慣れ親しんだ景色に対し、疑問をもつ姿勢を大切にしましょう。

01	オリエンテーション（授業の概要と進め方について説明）
02	それぞれの子ども観
03	発達の理論：エリクソン
04	発達の理論：ピアジェ
05	子どもの自己肯定感
06	子どもの道徳性
07	外見の違いをもって生まれるということ
08	外国につながりのある子ども
09	子どもと対峙する大人の育ち
10	家族会話
11	大人を支えるネットワーク
12	父親の役割
13	病気があること
14	障害があること 障害があること
15	全体のまとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:発達心理学特論Ⅱ	担当者:堀 由里	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
特論Ⅱでは最新の知見を学ぶのではなく、自身で作り上げる、研究をしていくことの練習をしていきます。発達心理学的な問いに対し、どのような方法論で問いに応じていくのか、実際にデータを取得することによって解決していきます【AL】。近年は、再現可能性が心理学分野でも問題になっていますので、古典的な、教科書に載るような研究も追試していくことがあるかもしれません。

授業の到達目標
1) 発達心理学の研究法について専門用語を用いて、理解することができる（DP：専門知識）。
2) 問い（目的）に対して適切な方法論を考えることができる（DP：汎用的思考力）。
3) 妥当性や信頼性、研究の倫理についても理解し、研究者としての素養を身につけることができる（DP：汎用的思考力）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
現場での子どもの言動に対する問いを列挙しておく（準備学修）。
統計学的検定については何度も復習をする（事後学修）。

評価方法
ディスカッション（50%）とプレゼンテーション（50%）を総合的に評価する。
プレゼンテーションに対するフィードバックは随時行う。
また最終回においては、ディスカッションを含めた全体のフィードバックを行う。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
研究と実践を往復しながら、それぞれの答えを見つけましょう。

01	オリエンテーション（授業の概要と進め方について説明）
02	今日的課題
03	発達心理学の研究法
04	自然観察：テーマ決め、準備
05	自然観察：体験
06	自然観察：分析、考察
07	実験的観察：テーマ決め、準備
08	実験観察：体験
09	実験観察：分析、考察
10	事例検討１:生活場面
11	事例検討２：遊び場面
12	発達検査１：K式
13	発達検査２：WPPSI
14	発達検査３：WISC
15	全体のまとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:乳幼児心理学特論Ⅰ	担当者:森山 雅子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限: 本年度遠隔授業対応科目		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業では、非認知能力に関する心理特性についてテキストを用いたうえで理解し、その教育の応用性について検討します。テキストを講読し、議論、解説をします。またそのうえで、みなさんの現場を振り返りながら応用可能性を議論しましょう。テキスト講読は、持ち回りでリポーターをしていただき進めます。

授業の到達目標
１．乳幼児心理に関わる非認知能力についてその特性や測定方法など専門知識（DP）を身につけ考察できるようになる。２．非認知能力について理解した上で、その教育の可能性について議論し、研究に必要な情報を整理し繋げ批判する力である汎用的思考力（DP）を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
心理学の研究をベースとしたテキストのため非常に難解です。授業の前後の学修もしっかり行うよう努めてください。また不明瞭なところを質問できるようまとめておくことも重要です。
準備学修では、事前に配布された論文や資料、テキストの該当部分をよく読み、要点や疑問点をまとめておいてください。
事後学修では、授業で学習したことを振り返り、要点をその都度確認し、課題を整理しておくようにしましょう。

評価方法
試験課題レポート　50%、授業への取り組み状況・参加態度　50%で総合的に評価します。
フィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介する。

教科書	参考図書
小塩真司（編）（2021）「非認知能力：概念・測定と教育の可能性」北大路書房	授業時に随時紹介していきます。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
心理学の研究をベースに乳幼児の発達やその応用可能性について考えます。連絡手段等は授業時にお伝えします。

01	授業の進め方等のガイダンスおよび受講生の問題意識の交流
02	非認知能力とは
03	誠実性　課題にしっかりと取り組むパーソナリティ
04	グリット　困難な目標への情熱と粘り強さ
05	自己制御・自己コントロール　目標の達成に向けて自分を律する力
06	好奇心　新たな知識や経験を探求する原動力
07	批判的思考　情報を適切に読み解き活用する思考力
08	楽観性　将来をポジティブにみて柔軟に対処する能力
09	時間的展望　過去・現在・未来を関連づけて捉えるスキル
10	情動知能　情動を賢く活用する力
11	感情調整　感情にうまく対処する能力
12	共感性　他者の気持ちを共有し、理解する心理特性
13	自尊感情　自分自身を価値ある存在だと思う心
14	セルフ・コンパッション　自分自身を受け入れてやさしい気持ちを向ける力
15	マインドフルネス　「今ここ」に注意を向けて受け入れる力
16	まとめ

科目名:乳幼児心理学特論Ⅱ	担当者:森山 雅子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:　　本年度遠隔授業対応科目		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業では、日誌的観察記録のテキストを用い、3歳児の発達を中心とした乳幼児の心理や発達について理解する。子どもを観察する視点や記録について議論する。
このテキストでは、兄・弟のきょうだいのそれぞれの3歳の時期の記録がなされている。子どもの言動が発達的な理論としてどのように表出するか、きょうだい児による発達の相違について、それをどのように記録していくかについて考えたい。受講生でレポーターを分担し、読み合わせながらのディスカッションを中心に進める。

授業の到達目標
１．3歳児を中心としながら乳幼児の発達について学び直し、議論する中で専門的知識（DP）を深めることができる。２．日誌的観察記録から、子どもを観察する視点や、記録をする際の留意点などを議論しながら考え、研究に必要な思考力、汎用思考力（DP）を深めることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で学ぶ理論的なことと実践を結びつけて理解し、実践に活かしていくことを大切にしていただきたいので、授業だけでなくその前後の学習も重視します。準備学修として、事前に配布された資料やテキストの該当部分をよく読み、要点や疑問点をまとめておくこと。事後学修としては、授業で学んだことを振り返り、要点をその都度確認し、課題を整理しておくようにしてください。

評価方法
試験課題レポート　50%、授業への取り組み状況・参加態度　50%で、総合的に評価します。
フィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介する。

教科書	参考図書
麻生武『兄と弟の3歳　仲間の世界へ―日誌的観察記録から―』ミネルヴァ書房	授業時に随時紹介していきます。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
3歳児を中心とした乳幼児の発達の面白さ難しさを記録を通して学び直しましょう。また日誌的観察記録についても知りましょう。

01	受講者の問題意識を議論する
02	3歳の心を理解するために
03	船出する3歳（１）兄
04	船出する3歳（２）弟
05	船出する3歳（３）3歳0か月から3歳2か月の特徴の特徴を議論する
06	自分の力を感じ始める3歳（１）兄
07	自分の力を感じ始める3歳（２）弟
08	自分の力を感じ始める3歳（３）3歳3か月から3歳5か月の特徴を議論する
09	パワーアップし拡がるがる3歳の世界（１）兄
10	パワーアップし拡がるがる3歳の世界（２）弟
11	パワーアップし拡がるがる3歳の世界（３）3歳6か月から3歳8か月の特徴を議論する
12	不安と希望、脱皮し始める3歳（１）兄
13	不安と希望、脱皮し始める3歳（２）弟
14	不安と希望、脱皮し始める3歳（３）3歳9か月から3歳11か月
15	まとめ
16	

科目名:カウンセリング特論Ⅰ	担当者:小原 倫子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:カウンセリング特論Ⅱも履修するとより理解が深まります。		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
情動理論の立場から乳幼児 - 養育者及び仲間同士の関係性を探究していく講義を行います。最初に情動理論の基本概念を示し、国内外の情動研究における重要な知見を概説します。それと併せて、カウンセリングに必要とされる理論と諸技法に関する講義と学生による論文講読を行います。情動理論を参照枠として教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや養育者の理解と心理支援のあり方に対する自らの視点の獲得を目指します。

授業の到達目標
1. 情動理論の基礎的な内容を理解し、説明することができる(DP：専門知識)
2. カウンセリングの基本的な理論や技法について理解し実践することができる。(DP：汎用的思考力)
3. 理論や技法に関する知識を用い、情動理論を参照枠として、事例の見立てや介入について考えることができる。 (DP：汎用的思考力)
4. カウンセリングを学ぶことで自己理解・他者理解を深める (DP：汎用的思考力)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおすようにしてください。
事後学修：教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや養育者と関わった体験とつなげて授業を理解し、研究の方向性を探求してください。

評価方法
発表及び主体的、協調的な授業への参加態度（60%）、課題レポート（40%)により総合的に評価します。
最終授業時に全体向けにフィードバックを行います。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	オリエンテーション
02	情動理論(１)情動とは何か：機能性/発達/知能
03	情動理論(２)情動はどのように生み出されるのか：自己/他者/社会・文化との関係性
04	情動理論を応用した子どもと養育者の心理支援
05	カウンセラーの職業倫理：「すること」と「してはいけないこと」について理解する
06	カウンセリングの理論①精神分析学
07	カウンセリングの理論①精神分析学についての論文講読、グループ発表【ＡＬ】
08	カウンセリングの理論②来談者中心療法
09	カウンセリングの理論②来談者中心療法についての論文講読、グループ発表【ＡＬ】
10	カウンセリングの理論③認知行動療法
11	カウンセリングの理論③認知行動療法についての論文講読、グループ発表【ＡＬ】
12	心理テストの実習　自己理解・他者理解を深める
13	カウンセラーに必要な資質と条件
14	カウンセリング心理学研究法
15	研究テーマの発見【ＡＬ】
16	なし

2022年度シラバス

科目名:カウンセリング特論Ⅱ	担当者:小原 倫子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:カウンセリング特論Ⅰを受講していること		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや養育者を対象とした心理支援と心理学研究の方法論について、講義とワーク中心に理解を深めます。

授業の到達目標
1. 教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや養育者を対象とした心理支援と心理学研究の方法論について理解を深める(DP：専門知識)
2. 各自の研究テーマに適した研究方法を選択することができる(DP：汎用的思考力)。
3. 心理支援のための基本的な理論と諸技法について学ぶ。また、知的理解にとどまらず、心理面接の事例検討やロールプレイ等を通して、体験的に理解することを目指す(DP：汎用的思考力)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおすようにしてください。
事後学修：教育・保育、心理支援の場で出会う子どもたちや保護者と関わった体験とつなげて授業を理解し、研究の方向性を探求してください。

評価方法
発表及び主体的、協調的な授業への参加態度（60％）、課題レポート（40%)により総合的に評価します。
最終授業時に全体向けにフィードバックを行います。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	オリエンテーション　カウンセリング特論Ⅰの振り返り
02	カウンセリングと心理学研究の方法論　アセスメントとは
03	カウンセリングと心理学研究の方法論　行動観察
04	カウンセリングと心理学研究の方法論　質問紙法
05	カウンセリングと心理学研究の方法論　心理検査（1）発達検査
06	カウンセリングと心理学研究の方法論　心理検査（2）知能検査
07	カウンセリングと心理学研究の方法論　心理検査（3）投影法
08	カウンセリングと心理学研究の方法論　面接
09	面接を体験的に学ぶ　ロールプレイ（発達に個性を持つ乳幼児の保護者の事例）【ＡＬ】
10	面接を体験的に学ぶ　ロールプレイ（情動に個性を持つ乳幼児の保護者の事例）【ＡＬ】
11	カウンセリングと心理学研究の方法論　プレイセラピー
12	プレイセラピーを体験的に学ぶ　（集団に適応できない幼児の事例）【ＡＬ】
13	集団面接について学ぶ　家族療法
14	カウンセリングのインテークから終結までの流れについて理解する
15	研究論文計画書作成　各自の研究テーマに適した研究方法の論文を購読し発表【ＡＬ】
16	なし

科目名:教育相談特論Ⅰ	担当者:小原 倫子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:教育相談特論Ⅰと教育相談特論Ⅱを続けて履修することが望ましい		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
教育の場で、相談支援を実践、探求していくための講義を行います。最初に教育相談の基本概念を示し、関連する研究知見を概説します。それと併せて教育相談に必要とされる理論と諸技法に関する講義と学生による論文講読を中心に授業を進めます。教育の場で出会う子どもたちや保護者の理解と相談支援のあり方に対する自らの視点の獲得を目指します。

授業の到達目標
1. 教育相談の基礎的知識を理解し、説明することができる(DP：専門知識)
2. 教育相談の技法について理解し実践することができる(DP：汎用的思考力)
3. 理論や技法に関する知識を用い、相談事例の見立てや介入について考えることができる(DP：汎用的思考力)
4. 教育の場で、理論や技法に関する知識を自分の力として実際に使うことができる。(DP:汎用的思考力)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおすようにしてください。
事後学修：教育の場で出会う子どもたちや養育者と関わった体験とつなげて授業を理解し、研究の方向性を探求してください。

評価方法
発表及び主体的、協調的な授業への参加態度（60％）、課題レポート（40%)により総合的に評価します。
最終授業時に全体向けにフィードバックを行います。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	オリエンテーション
02	教育相談の基礎　意義と役割
03	教育相談の基礎　保護者への対応と基本
04	教育相談の基礎　教師のメンタルヘルスとその対応
05	教育相談に関する論文講読、グループ発表【ＡＬ】
06	教育相談に必要な発達と精神病理の知識
07	教育相談の実際（１）不登校への対応と予防
08	教育相談の実際（２）いじめへの対応と予防
09	教育相談の実際（３）非行への対応と予防
10	教育相談の実際（４）情報化社会における問題と対応
11	教育相談の実際（５）児童虐待とその対応
12	教育相談の実際（６）配慮が必要な子どもの理解と対応
13	教育相談の実際（７）子育てと家族の問題への対応
14	研究テーマに適した事例研究の論文講読、グループ発表【ＡＬ】
15	研究テーマの発見【ＡＬ】
16	なし

科目名:教育相談特論Ⅱ	担当者:小原 倫子	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:教育相談特論のⅠとⅡを続けて履修することが望ましい。		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
教育の場で出会う子どもたちや保護者を対象とした相談支援と心理学研究の方法論について、講義とワーク中心に理解を深めます。

授業の到達目標
1. 教育の場で出会う子どもたちや保護者を対象とした相談支援と心理学研究の方法論について理解を深める（DP：専門知識）
2. 相談支援のための基本的な理論と諸技法について学ぶ。また、知的理解にとどまらず、相談支援の事例検討やロールプレイ等を通して、体験的に理解することを目指す(DP：汎用的思考力)
3. 教育の場で、理論や技法に関する知識を自分の力として実際に使うことができる(DP：汎用的思考力)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、疑問や関心を持った内容について調べてまとめなおすようにしてください。
事後学修：教育の場で出会う子どもたちや保護者と関わった体験とつなげて授業を理解し、研究の方向性を探求してください。

評価方法
発表及び主体的、協調的な授業への参加態度（60％）、課題レポート（40%)により総合的に評価します。
最終授業時に全体向けにフィードバックを行います。

教科書	参考図書
なし	適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業に関する積極的な質問や主体的な授業参加を歓迎します。常に疑問や関心を持ちながら受講し、教育や保育にどのように活かせるのかを一緒に考え続けていきましょう。連絡先等の詳細は初回の授業内で伝えます。

01	オリエンテーション　教育相談特論Ⅰの振り返り
02	教育相談で使用されるカウンセリングの技法について学ぶ（1）言語的なかかわりを中心として
03	教育相談で使用されるカウンセリングの技法について学ぶ（2）非言語的なかかわりを中心として
04	教育相談における心理アセスメントについて学ぶ
05	教育現場で使用する心理検査について学ぶ　発達検査・知能検査
06	心理検査を教育相談に活かす方法を学ぶ【ＡＬ】
07	事例から学ぶ教育相談（１）不登校【ＡＬ】
08	事例から学ぶ教育相談（２）いじめ【ＡＬ】
09	事例から学ぶ教育相談（３）非行【ＡＬ】
10	事例から学ぶ教育相談（４）児童虐待【ＡＬ】
11	事例から学ぶ教育相談（５）子育てと家族の問題【ＡＬ】
12	事例から学ぶ教育相談（６）精神病理の問題【ＡＬ】
13	教育相談における職員間の連携について学ぶ
14	事例を通して関係機関とのコーディネートについて学ぶ【ＡＬ】
15	研究論文計画書作成　各自の研究テーマに適した論文を購読し発表【ＡＬ】
16	なし

科目名:教育心理学特論Ⅰ	担当者:堀 由里	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
子どもを取り巻く様々な環境の変化、家庭・地域社会の教育力の低下が指摘され、小1プロブレムなど発達や学びの連続性を確保することも課題となっています。この授業では、教育現場でおきている現象を自身の具体的体験と学術研究から考察していくことを中心にしていきます。授業方法としては、文献を輪読すること、プレゼンすること、ディスカッションすることを行います【AL】。但し、授業計画で示す内容は、受講者の人数や関心により変更することがあります。

授業の到達目標
1) 子どもの育ちの現場で起こる様々な現象を心理学の専門用語を用いて、深く理解することができる（DP：専門知識）。
2) 最新の教育心理学のトピックスについて、批判的に思考することができる（DP：汎用的思考力）。
3) 先行研究やそこから新たに生まれる問いを他者に分かりやすく伝えることができる（DP：汎用的思考力）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、要点や疑問点をまとめておく。事後学修：授業を自分なりに要約し、新たな研究の発展を考える。

評価方法
授業への主体的・協調的な参加状況（30%）、論文紹介発表（40%）、研究課題レポート（30%）
レポートは授業内で適宜フィードバックを行う。

教科書	参考図書
適宜、資料配布	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実践と研究が乖離してしまわないように、常に現場を体感しつつ、アカデミックな視点でも捉え直してみましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝える。

01	教育・保育における子ども理解に果たす教育心理学の役割
02	乳幼児期の遊びが知的・身体・社会性・情緒・言語発達に与える影響
03	親子関係と仲間関係が社会性の発達に与える影響
04	役割取得能力や社会的スキルの発達・学習
05	認知発達理論に基づいた道徳性、思いやりの発達
06	心の理論を背景にした嘘、関係性攻撃
07	自己効力感、有能感の獲得と発達
08	習うこと・真似ることの意味
09	子どもの意欲の源泉
10	評価されること、評価すること
11	先生としてのリーダーシップ
12	学習の躓きとワーキングメモリ
13	適正処遇交互作用
14	発達の偏りや外国につながりのある子など特別に配慮が必要な子どもの心理
15	研究のシーズをみつける
16	なし

2022年度シラバス

科目名:教育心理学特論Ⅱ	担当者:堀 由里	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
特論Ⅱでは最新の知見を学びつつ、教育心理学の研究を行う練習をしていきます。教育現場の今日的課題および学術的背景に対し、どのような問いをたてるのか、どのような方法論で問いに応じていくのか、実際にデータを取得することによって解決していきます【AL】。近年は、再現可能性が心理学分野でも問題になっていますので、古典的な、教科書に載るような研究も追試していくことがあるかもしれません。

授業の到達目標
1) 教育心理学の研究法について専門用語を用いて、理解することができる（DP：専門知識）。
2) 問い（目的）に対して適切な方法論を考えることができる（DP：汎用的思考力）。
3) 妥当性や信頼性、研究の倫理についても理解し、研究者としての素養を身につけることができる（DP：汎用的思考力）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：事前に配布した資料を読み、要点や疑問点をまとめておく。事後学修：授業を自分なりに要約し、新たな研究の発展を考える。

評価方法
授業への主体的・協調的な参加状況（50%）、研究課題レポート（50%）
レポートや発表に対するフィードバックは、授業内で適宜行う。

教科書	参考図書
適宜、資料配布	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実践と研究が乖離してしまわないように、常に現場を体感しつつ、アカデミックな視点でも捉え直してみましょう。オフィス・アワーや連絡手段については授業内で伝える。

01	教育・保育の今日的課題の確認
02	教育・保育で活かす心理学の研究方法
03	実験法（1）体験
04	実験法（2）分析
05	実験法（3）考察
06	質問紙調査（1）体験
07	質問紙調査（2）分析
08	質問紙調査（3）考察
09	面接法（1）体験
10	面接法（2）分析
11	面接法（3）考察
12	観察法（1）体験
13	観察法（2）分析
14	観察法（3）考察
15	研究論文の構成
16	なし

2022年度シラバス

科目名:教育学特論Ⅰ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限: 本年度遠隔授業対応科目		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　１．教科書の内容について報告し討論する。　２．報告し討論した後のまとめを、次回冒頭に報告し討論する。　１と２を併せて教育・保育専門職として必要な知識・技能・能力の基礎力と応用力を高める。

授業の到達目標
　この授業では、イギリス学校教育誕生期から確立期に、教育とそれを巡る子ども（幼児から青年まで）、親、コミュニティとの関連を理解する専門知識を身につける。また教育・保育の制度的機能を構造的に考察できる汎用的思考力を身につける。特に当事者に対する口述史研究、生活誌研究の方法と考察についても深く理解する。（大学院人間科学専攻DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、１回の授業毎に、事前学修として、受講生各自が範囲を一読しレジュメを作成すること。　上記２については、１回の授業毎に、事後学修として、受講生各自がまとめを行ないレジュメを作成すること。　＊事前学修２時間、事後学修１時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容・態度（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。報告、レポートについてのフィードバックは、毎回、授業内で行う。

教科書
Ｄ・ビンセント『パンと知識と解放と　19世紀イギリス労働者階級の自叙伝を読む』岩波書店。Ｓ・ハンフリ『大英帝国の子どもたち　聞き取りによる非行と抵抗の社会史』柘植書房。Ｐ・ウィリス『ハマータウンの野郎ども　―学校への反抗・労働への順応』筑摩学芸文庫。前２冊は絶版なので資料で配布します。購入は後者一冊のみ。

参考図書
　適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワーについては、依頼があれば随時設定する。

01	考察の視点について
02	識字と自己教育１
03	識字と自己教育２
04	識字と自己教育３
05	階級文化と代替文化１
06	階級文化と代替文化２
07	階級文化と代替文化３
08	子どもと地域の文化１
09	子どもと地域の文化２
10	子どもと地域の文化３
11	学校教育制度の機能１
12	学校教育制度の機能２
13	学校教育制度の機能３
14	児童期から青年期の人間形成の問題１
15	児童期から青年期の人間形成の問題２
16	なし

2022年度シラバス

科目名:教育学特論Ⅱ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限: 本年度遠隔授業対応科目		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　１．教科書の内容について報告し討論する。　２．報告し討論した後のまとめを、次回冒頭に報告し討論する。　１と２を併せて教育・保育専門職として必要な知識・技能・能力の基礎力と応用力を高める。

授業の到達目標
　この授業では、イギリス学校教育誕生期から確立期に、教育とそれを巡る子ども（幼児から青年まで）、親、コミュニティとの関連を理解する専門知識を身につける。また教育・保育の制度的機能を構造的に考察できる汎用的思考力を身につける。特に当事者に対する口述史研究、生活誌研究の方法と考察についても深く理解する。（大学院人間科学専攻DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、１回の授業毎に、事前学修として、受講生各自が範囲を一読しレジュメを作成すること。　上記２については、１回の授業毎に、事後学修として、受講生各自がまとめを行ないレジュメを作成すること。＊事前学修２時間、事後学修１時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容・態度（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。報告、レポートについてのフィードバックは、毎回、授業内で行う。

教科書
D・ビンセント『パンと知識と解放と　19世紀イギリス労働者階級の自叙伝を読む』岩波書店。S・ハンフリ『大英帝国の子どもたち　聞き取りによる非行と抵抗の社会史』柘植書房。P・ウィリス『ハマータウンの野郎ども　―学校への反抗・労働への順応』筑摩学芸文庫。前２冊は絶版なので資料で配布します。購入は後者一冊のみ。

参考図書
　適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワーについては、依頼があれば随時設定する。

01	考察の視点について
02	同化、非行、抵抗について１
03	同化、非行、抵抗について２
04	同化、非行、抵抗について３
05	子ども、親、地域、文化のネットワーク１
06	子ども、親、地域、文化のネットワーク２
07	子ども、親、地域、文化のネットワーク３
08	学校への抵抗、労働への順応１
09	学校への抵抗、労働への順応２
10	学校への抵抗、労働への順応３
11	学校教育の再生産機能・分配機能１
12	学校教育の再生産機能・分配機能２
13	学校教育の再生産機能・分配機能３
14	今日の保育・教育の構造を構成する１
15	今日の保育・教育の構造を構成する２
16	なし

2022年度シラバス

科目名:教育史特論Ⅰ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限: 本年度遠隔授業対応科目		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
１．担当者の割り振りを行い、教科書の内容について報告し討論する。２．担当者の割り振りを行い、指定された課題について報告し討論する。

授業の到達目標
　この授業では、斎藤公子とさくら・さくらんぼ保育の実践を通して、人が育つということについての斎藤公子の知の世界の専門知識を身につけ、幼児教育・児童教育について考える汎用的思考力を身につける。（大学院人間科学専攻DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、担当者が報告について準備学修を行うが、参加者各自が範囲を一読し、ノートを取っておくこと、またその回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。 上記２については、担当者が報告について準備学修を行うこと。毎回の授業後に参加者各自が、その回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。＊事前学修２時間、事後学修１時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。報告、レポートのフィードバックについては、毎回、授業内で行う。

教科書	参考図書
斎藤公子『子育て＝錦を織る仕事』『斎藤公子の保育論』	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　希望があり次第、随時設定する。

01	考察の視点について
02	語りきかせ
03	保育の芯、子育ての芯
04	子どもの心を探る、掴む
05	子どもと食事
06	子どもと盗み
07	子どもと嫉妬
08	保育の仕事を支えるもの
09	胎児からの保育
10	ゼロ歳児～六歳児の保育
11	ヒトの進化と保育
12	自然環境について
13	家庭環境について
14	斎藤公子の知（育つことの哲学）
15	斎藤公子が考える人間の姿（保幼小の育ち）
16	なし

科目名:教育史特論Ⅱ	担当者:金子 晃之	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限: 本年度遠隔授業対応科目		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　１．担当者の割り振りを行い、教科書の内容について報告し討論する。　２．担当者の割り振りを行い、指定された課題について報告し討論する。

授業の到達目標
　この授業では、倉橋惣三の著作の講読を通して、倉橋の子ども観、教育観、誘導保育についての専門知識を身につけ検討し、倉橋が描いた子ども理解と教育計画の特性を保幼小の観点から教育史の中に位置づける汎用的思考力を身につける。（大学院人間科学専攻DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　上記１については、担当者が報告について準備学修を行うが、参加者各自が範囲を一読し、ノートを取っておくこと、またその回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。 上記２については、担当者が報告について準備学修を行うこと。毎回の授業後に参加者各自が、その回の事後学修としてのまとめを行っておくこと。＊事前学修２時間、事後学修１時間を確保すること。

評価方法
　授業時の発言・報告の内容（50点）、各回のまとめを中心として作成するレポートの内容（50点）を合計して100点満点で評価する。報告、レポートについてのフィードバックは、授業内で常に行う。

教科書	参考図書
倉橋惣三『幼稚園真諦』『幼稚園雑草(上)(下)』	適宜、指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワー　希望があり次第、随時設定する。

01	考察の視点について
02	幼稚園保育法
03	保育案の実際
04	保育過程の実際
05	園丁雑感
06	森の幼稚園
07	幼稚園雑感
08	幼児の教育者
09	幼児教育小観
10	保育論形成期
11	フレーベル幼稚園
12	恩物
13	倉橋惣三の教育史的位置付け
14	誘導保育と小学校教育
15	誘導保育と現代
16	なし

2022年度シラバス

科目名:幼児教育学特論Ⅰ	担当者:上村 晶	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:幼稚園教諭専修免許状		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、乳幼児期の子どもを取り巻く幼児教育・保育に関する現状や今後の展望について，国内外の動向を踏まえた上で、今日的課題について検討する。加えて、受講者の関心トピックや研究的問いをディスカッションを通じて深掘りしていく中で、保育・幼児教育の質に関する自身の考えを明確にできるようにする。特に、幼稚園教諭の立場から、実践現場に根差した様々な幼児教育・保育の在り方を深く考えることを基軸に、実践に資するような学びとの往還を踏まえながら、授業を展開する。【AL】

授業の到達目標
①国内外の幼児教育・保育の質を巡る動向に関する基礎的な専門知識を修得する（MDP1）。
②受講者間同士の対話・プレゼンテーションを通して、エビデンスに基づきながら自身の問題意識や研究的問いを明確にするなどの汎用的思考力を身につける（MDP2）。
③国内外の現状を踏まえて今後の保育の在り方に関する課題を整理し、批判的思考を通して今後の研究への示唆を得る。
◎MDP1：専門知識、◎MDP2：汎用的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
今年度は「幼児教育・保育の国際比較」を主テーマとして取り上げます。教科書は、第1巻・第2巻の2冊を取り扱いますので、全7章において各回の文献・資料等を事前に通読しておくと同時に、発表回にはレジュメを作成し、自身の見解を明確にしておいてください（§7-13は院生による発表となります）。また、ファイナルレポートは、第13回までの学びを生かしながら、作成・発表できるよう備えてください。

評価方法
文献レビューと発表（30%）、ディスカッションへの参加（30%）、ファイナルレポート（40%）で総合評価を行う。
フィードバックの方法：課題発表等においては、発表時に総評と配慮事項をその場で伝える。

教科書	参考図書
国立教育政策研究所（編）「幼児教育・保育の国際比較：OECD国際幼児教育・保育従事者調査2018報告書（第1巻/第2巻）」明石書店	上村晶「保育者は子どもとどのようにわかり合おうとするのか」風間書房　※その他、受講者の興味・関心に応じて紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育経験の有無に関わらず、各々が常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください（OHや連絡先は初回授業時及びMoodleに開示します）。

01	オリエンテーション、個々の研究テーマ等の発表
02	個々の研究的関心に沿った文献および資料選定（１）検索・収集の方法
03	個々の研究的関心に沿った文献および資料選定（２）レジュメ作成の方法・発表方法
04	国内の幼児教育・保育の質の議論に関するディスカッション（１）ー幼稚園教育に着目して
05	国内の幼児教育・保育の質の議論に関するディスカッション（２）ー保育所保育に着目して
06	OECD諸国における幼児教育・保育の質の議論の変遷、OECD国際幼児教育・保育従事者調査2018の概要と政策への示唆
07	文献の発表・ディスカッション（１）ー園の環境と構造の質（第1巻）
08	文献の発表・ディスカッション（２）ーガバナンス・資金調達と幼児教育・保育の質（第1巻）
09	文献の発表・ディスカッション（３）ー園長・保育者の勤務環境とその支援（第1巻）
10	文献の発表・ディスカッション（４）ー子ども・保育者・保護者間のやりとり（第1巻）
11	文献の発表・ディスカッション（５）ー保育者の養成教育、研修と専門性向上のための活動（第2巻）
12	文献の発表・ディスカッション（６）ー保育者の労働条件とウェルビーイング（第2巻）
13	文献の発表・ディスカッション（７）ー園におけるリーダーシップと管理運営（第2巻）
14	国内外の幼児教育・保育の質を巡る議論に関するファイナルレポート作成
15	ファイナルレポート発表・ディスカッション、総括
16	

科目名:幼児教育学特論Ⅱ	担当者:上村 晶	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:幼稚園教諭専修免許状		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】幼稚園教諭
本科目は、実際の幼児教育・保育におけるフィールド・スタディーを通して、実践現場に根差した研究的問いを立てながら、多様な研究方法や研究倫理について理解を深める。また、実際にデータ収集をした上で、受講生同士の対話を通じて多角的な視点から分析・考察する中で、論理的な思考の在り方について理解を深める。特に、幼稚園教諭の立場から、実践現場に根差した様々なフィールド・スタディーの在り方を深く考えることを基軸に、実践に資するような研究の在り様を踏まえながら、授業を展開する。【AL】

授業の到達目標
①幼児教育・保育の実践に根差した多様な研究方法や研究倫理について、基本的な専門知識を理解する（MDP1）。
②幼児教育・保育における研究的問いを立てながら、研究デザインの構想に必要な基礎的な専門知識を修得する（MDP1）。
③実際に幼児教育・保育のフィールドに出向いてデータ収集・分析する中で、エビデンスに基づく論理的な考察などの汎用的思考力を修得する（MDP2）。
◎MDP1：専門知識、◎MDP2：汎用的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
今年度は、研究テーマを具現化する研究方法について理解を深めながら、受講者間の議論を踏まえて選定した「幼児教育・保育のフィールドを対象としたデータ収集と分析」を主テーマとして取り上げます。各回において課題となる文献・資料等を事前に通読すると同時に、授業外においても積極的に各自のデータ分析に取り組み、発表に備えてください。
また、第7-8回は実際にフィールドに出向いてデータ収集を行う予定ですが、Covid-19の感染状況に応じて適宜判断・変更する可能性もありますのでお含みおきください。なお、ファイナルレポートは、第13回までの学びを生かしながら、作成・発表できるよう備えてください。

評価方法
文献レビューと発表（30%）、ディスカッションへの参加（30%）、ファイナルレポート（40%）で総合評価を行う。
フィードバックの方法：課題発表等においては、発表時に総評と配慮事項をその場で伝える。

教科書
指定しない（受講者の興味・関心に応じて紹介します）

参考図書
サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実編（2019）質的研究法マッピング　新曜社
大谷尚（2019）質的研究の考え方：研究方法論からSCATによる分析まで. 名古屋大学出版会
小塩真司・西口利文（2007）心理学基礎演習Vol.2　質問紙調査の手順　ナカニシヤ出版
平成29年告示版　幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育経験の有無に関わらず、各々が常に課題意識を持ちながら授業に臨んでください（OHや連絡先は初回授業時及びMoodleに開示します）。

01	オリエンテーション、個々の研究テーマ等の発表
02	研究デザインについて　－研究計画書の作成方法
03	研究倫理について　－研究倫理審査の概要
04	フィールドワークと依頼方法　－依頼文書作成の方法
05	様々なデータ収集方法（１）－量的研究
06	様々なデータ収集方法（２）－質的研究
07	幼児教育・保育のフィールドを対象としたデータの収集（１）保育環境・子どもの姿に着目して
08	幼児教育・保育のフィールドを対象としたデータの収集（２）保育者の援助に着目して
09	収集データの分析方法（１）－量的研究
10	収集データの分析方法（２）－質的研究
11	分析データの発表・ディスカッション（１）分析方法の検討に着目して
12	分析データの発表・ディスカッション（２）分析プロセスに着目して
13	分析データの発表・ディスカッション（３）分析データを踏まえた総合考察に着目して
14	研究的問いに即したファイナルレポート作成
15	発表・ディスカッション、総括
16	

科目名:社会学特論Ⅰ	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限: 本年度遠隔授業対応科目		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　社会学の巨匠と呼ばれるA．コント、M．ウェーバー、T．パーソンズ、また、カント、ヘーゲル理論から、「社会とは何か」「自らが問題とする対象を研究する際に、研究者が踏まえるべき前提」とは何かを学習する。「研究する」ということ、研究対象を選定するということ、その方法論等の研究における受講生の基本的な姿勢・実践を、授業中に扱う社会学理論に依拠しながら確認・習得する。

授業の到達目標
授業テーマの講義・説明後、受講者の選定に基づく課題についての研究成果を発表する。この場合、発表の準備、プレゼンテーションの方式、文書資料の探索と整理、口述の技法などの研究における汎用的能力の修得についても理解する。（大学院人間科学専攻DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
受講者が分担する課題について、その発表の準備、プレゼンテーションの方式等についての解説に則り、レジュメ等の準備をする。また、その発表後の研究成果についてのレポート作成を事後学修とする。

評価方法
レジュメの作成（30%）、報告（30%）およびレポート作成（40%）にて評価する。作成したレジュメ、レポートについて授業終了後に提出し、その修正等を行った後に返却してフィードバックを行う。

教科書	参考図書
柿本昭人・嶋守さやか『社会の実存と存在』世界思想社、1998年	適宜指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　研究初心者であり、かつ、自らの掲げたテーマや課題に誠実かつ真摯に取り組む姿勢を持てることを受講要件とする。社会学・理論についての習熟度は問わない。オフィスアワーは毎週土曜日のお昼休みとする。

01	授業オリエンテーション（授業目的、授業の進め方等についての説明）
02	映像資料による「社会」の理解――記録と記述について
03	映像資料による「社会」の理解――グループディスカッションおよびプレゼンテーション
04	「社会」とは何か――研究対象を定めるということ
05	デュルケム――「もの」としての社会
06	デュルケム――「規範」とは何か
07	パーソンズ――「システム」という考え方
08	パーソンズ――秩序と病理
09	ウェーバー――宗教と社会
10	ウェーバー――主観性と科学
11	カント――「認識」自体の成立と始源
12	ヘーゲル――無限判断
13	ヘーゲル――Xを思考する
14	グループディスカッションおよびプレゼンテーション
15	まとめ――社会学は「社会」を研究する学問なのか？
16	なし

科目名:社会学特論Ⅱ	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限: 本年度遠隔授業対応科目		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　研究対象となる社会の営みを質的に調査する手法について学修する。フィールドワーク、参与観察法、聞取り調査、ライフヒストリー研究、ドキュメント分析等の質的調査法に関する基本的理解を踏まえ、受講者の関心対象に応じたフィールドでの聞取り調査を実施し、質的データの収集と質的分析について理解する。

授業の到達目標
　統計的数量的調査とは異なる事例研究の技法を習得し、様々な事例研究方法の理解および実践的能力等の研究における汎用的能力の修得を授業の到達目標としたい。（大学院人間科学専攻DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業テーマの講義・説明後、そのテーマ内容と受講者の関心に応じた予備調査を行うことを準備学修課題とする。また、その質的データ分析結果をレポートとしてまとめることを事後学修課題とする。

評価方法
レジュメの作成（30%）、報告（30%）およびレポート作成（40%）にて評価する。作成されたレジュメ、レポートについては授業後に提出し、その修正を行った後に返却してフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業中に指示する	嶋守さやか『寿ぐひと』新評論

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　研究初心者であり、かつ、自らの掲げたテーマや課題に誠実かつ真摯に取り組む姿勢を持てることを受講要件とする。オフィスアワーは毎週土曜日のお昼休みとします。

01	授業オリエンテーション（授業目的、授業の進め方等についての説明）
02	質的調査の基本的な考え方
03	質的調査と研究倫理
04	質的調査法（１）フィールドワーク、参与観察法
05	質的調査法（２）ライフヒストリー分析
06	質的調査法（３）ドキュメント分析、KJ法
07	質的調査法（４）聞きとり調査、インタビュー（構造化、半構造化）
08	質的調査の実際（１）問いを立て、技法を選択する
09	質的調査の実際（２）記録する
10	質的調査の実際（３）データを処理する
11	質的調査の実際（４）結果を分析する
12	質的調査の実際（５）考察を行う
13	質的調査の実際（６）報告書を作成する
14	質的調査の実際（７）調査結果を報告する
15	グループディスカッションおよびプレゼンテーション
16	なし

科目名:保育内容特論Ⅰ	担当者:田中 義和	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
保育学研究における遊び研究の到達点と課題について学び、保育における遊び指導の在り方について検討する。指定された文献についてレポートを作成・報告し、討論する。

授業の到達目標
遊び研究の現状と課題について専門的知識（DP)を取得、（、研究的な視点を持ち、保育実践に取り組む汎用的思考力（DP）を形成する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で取り上げる文献についての報告準備。授業中に課された課題の提出。

評価方法
授業態度（50%） レポート（30%）

教科書	参考図書
特に使用しない。	授業中に指示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
たくさんの論文を読み、多様な研究方法について理解を深めてください、。連絡手段は、授業中に指示します。

01	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（変化する素材の遊び）
02	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（変化する素材の遊び）
03	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（変化する素材の遊び）
04	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（変化する素材の遊び）
05	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（鬼遊び）
06	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（鬼遊び）
07	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（鬼遊び）
08	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論 （鬼遊び）
09	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（探険遊び
	び)	
10	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（険遊び）
11	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（探険遊び）
12	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論 【プロジェクト活動）
13	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（プロジェクト活動）
14	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（プロジェクト活動）
15	文献購読	『保育学研究』誌などから、遊び研究についての論文をレポート・討論（プロジェクト活動）
16		

2022年度シラバス

科目名:保育内容特論Ⅱ	担当者:田中 義和	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 描画表現活動の指導について主な民間教育団体（保育問題研究会・創造美育協会・美術教育を進める会・新しい絵の会・キミコ方式など）の理論と実践について学ぶ。
授業の到達目標 描画表現指導の現状と課題について専門的知識（DP)を取得、研究的な視点を持ち、保育実践に取り組む汎用的思考力（DP)を形成する。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 授業でとりあげる文献についての報告準備。授業中に出された課題の学習。
評価方法 授業態度（50%） レポート（50%）

教科書 授業中に指示	参考図書 授業中に指示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 積極的に討論に参加してください。

01	なぐりがき期の発達
02	なぐりがき期の指導
03	前図式期の発達
04	前図式期のの指導
05	図式の発達　子どもらしい表現とは
06	図式期の指導　生活の表現を中心に
07	絵の苦手な子の指導
08	障害を持つ子どもたちの描画発達　自閉症児を中心に
09	障害を持つ子どもたちの描画指導
10	子どもの絵の診断的見方　描画テストと描画療法
11	子どもの絵の診断的見方　保育実践の中での診断的見方
12	絵の描き方を教えること　松本キミ子方式
13	創造美育協会の理論と実践　変化する素材（自然の素材）
14	創造美育協会の理論と実践　感触遊び
15	東京保育問題研究会絵画部会の理論と実践　観察画を中心に
16	

2022年度シラバス

科目名:保育内容特論Ⅲ	担当者:木村 達志	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
子どもの今日的な課題を把握するため、研究的な視点を持って文献を網羅し、健康に関する理解を深めます。授業計画に列挙されている内容を受講者が分担し、プレゼンテーションを行っていただきます。先行研究における研究手法や統計解析方法についても学習します。

授業の到達目標
国内外の子どもの健康に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる文献の収集と整理ができる(DP)。量的研究および質的研究について、統計解析や質的研究に関する解析方法を理解する。必要に応じて倫理申請書の作成が出来るようになる(DP)。
【到達目標と深く関連する大学院DP】
教育・保育分野での人材育成に必要となる高度な専門知識と汎用的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で取り上げる文献とプレゼンテーションの準備

評価方法
ディスカッションへの取り組み60%　プレゼンテーションの内容40%

教科書	参考図書 必要に応じて案内します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段は授業時に案内します

01	子どもの健康に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる学術論文の検索、文献の記載方法
02	子どもの健康に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる学術論文の要約
03	子どもの健康に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる領域のトレンド
04	子どもの健康に関わる先行研究（アンケートの解析例その1）
05	アンケートの解析例その1と受講生自身の研究テーマの比較
06	子どもの健康に関わる先行研究（アンケートの解析例その2）
07	アンケートの解析例その2と受講生自身の研究テーマの比較
08	子どもの健康に関わる先行研究（実測データの解析例その1）
09	実測データの解析例その1と受講生自身の研究テーマの比較
10	子どもの健康に関わる先行研究（実測データの解析例その2）
11	実測データの解析例その2と受講生自身の研究テーマの比較
12	子どもの健康に関わる先行研究（質的データの解析例その1）
13	質的データの解析例その1と受講生自身の研究テーマの比較境
14	子どもの健康に関わる先行研究（質的データの解析例その2）
15	質的データの解析例その2と受講生自身の研究テーマの比較
16	

2022年度シラバス

科目名:保育内容特論Ⅳ	担当者:木村 達志	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
国内外の子どもの身体運動に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる文献の収集と整理ができる(DP)。量的研究および質的研究について、統計解析や質的研究に関する解析方法を理解する。必要に応じて倫理申請書の作成が出来るようになる(DP)。
【到達目標と深く関連する大学院DP】
教育・保育分野での人材育成に必要となる高度な専門知識と汎用的思考力

授業の到達目標
国内外の子どもの健康について、ご自身の研究テーマに関わる文献の収集と整理ができる。量的研究および質的研究の方法や統計解析を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で取り上げる文献とプレゼンテーションの準備

評価方法
ディスカッションへの参加60%、プレゼンテーションの内容40%

教科書	参考図書 必要に応じて案内します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段は授業時に案内します

01	子どもの身体運動に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる学術論文の検索、文献の記載方法
02	子どもの身体運動に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる学術論文の要約
03	子どもの身体運動に関するものや受講生自身の研究テーマに関わる領域のトレンド
04	子どもの身体運動に関わる先行研究（アンケートの解析例その1）
05	アンケートの解析例その1と受講生自身の研究テーマの比較
06	子どもの身体運動に関わる先行研究（アンケートの解析例その2）
07	アンケートの解析例その2と受講生自身の研究テーマの比較
08	子どもの身体運動に関わる先行研究（実測データの解析例その1）
09	実測データの解析例その1と受講生自身の研究テーマの比較
10	子どもの身体運動に関わる先行研究（実測データの解析例その2）
11	実測データの解析例その2と受講生自身の研究テーマの比較
12	子どもの身体運動に関わる先行研究（質的データの解析例その1）
13	質的データの解析例その1と受講生自身の研究テーマの比較
14	子どもの身体運動に関わる先行研究（質的データの解析例その2）
15	質的データの解析例その2と受講生自身の研究テーマの比較
16	

2022年度シラバス

科目名:食育特論Ⅰ	担当者:辻岡 和代	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
１．食育に関する指針や栄養に関する基礎知識を学ぶための講義（6回）
２．子どもの発育・発達に合わせた食育に関するディスカッションと演習（9回）
なお、年齢に合わせた食育の内容については、受講生の興味関心を伺った上で、熟議しながら具体的な内容を決定していく。

授業の到達目標
１．栄養についての基礎知識や、保育所における食育、食生活に関する専門知識を身につける【DP】
２．食育に関する文献を収集し、ディスカッションすることができる
３．保育園、幼稚園、小学校における食育を実践するための基礎的なスキルを身につけることができる
４．食育について考察し整理する汎用的思考力を身につけることができる【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
自分自身の食生活についての振り返りを常に行うこと。また、食と栄養に関する情報の真偽が自分で判断できるように授業内での学習をもとに積極的に調べ、考える力を養うこと。準備学修としての具体的な課題は、各授業の際に別途示す。

評価方法
授業への参加態度40%、プレゼンテーション40%、レポート20%の割合で評価する。提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行う。

教科書	参考図書
必要に応じて授業内に指示する	保育所保育指針　等　各指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先は授業で開示する

01	食育に関するオリエンテーション
02	食育に関する指針（１）食育基本法と食育基本計画
03	食育に関する指針（２）保育所保育指針　保育所における食育に関する指針
04	科学的な思考と考察
05	食と衛生管理
06	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
07	乳児期の食育
08	1歳児の食育
09	2歳児の食育
10	3歳児の食育
11	4歳児の食育
12	5歳児の食育
13	学童期の食育
14	保護者を交えた食育
15	特別な配慮を要する子どもの食育
16	

2022年度シラバス

科目名:食育特論Ⅱ	担当者:辻岡 和代	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
１．食に関する諸問題をテーマとした食育に関する計画と演習（4回）
２．地域の特性を活かした食育に関する計画と演習（3回）
３．子どもを対象とした食育に関する計画と演習（8回）
※なお、各回の食育の内容および計画・演習の具体的な内容については、受講生の興味関心を伺った上で、熟議してその内容を決定する。

授業の到達目標
１．食生活に関する諸問題を踏まえた食育を専門的知識をもとに計画することができる【DP】
２．地域の特性を活かした食育を計画することができる
３．幼児・児童を対象とした食育を実践するためのスキルを身につけることができる
４．食育について考察し整理する汎用的思考力を身につけることができる【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
食生活に関する諸問題についての情報収集と演習後の振り返り
地域で行われている食育活動に関する調査（広報・新聞など）
食文化に関する調べ学習
食育活動に関する情報収集（論文・文献など）
プレゼンテーションの準備

評価方法
授業（各演習時のプレゼンテーション含む）への参加態度70％、レポート課題30％の割合で評価する。提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行う

教科書	参考図書
必要に応じて授業内に指示する	食育白書　等

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先は授業で開示する

01	食育に関するオリエンテーション
02	食の諸問題と食育活動
03	食の諸問題に対応した食育計画
04	食の諸問題に対応した食育計画と演習
05	地域の食文化と食育活動
06	地域の食文化を活かした食育計画
07	地域の食文化を活かした食育計画と演習
08	保育園・幼稚園における食育
09	保育園・幼稚園における食育計画
10	保育園・幼稚園における食育計画と演習
11	子どもを対象とした食育
12	子どもを対象とした食育の計画
13	子どもを対象とした食育の準備
14	子どもを対象とした食育の演習
15	子どもを対象とした食育の振り返り
16	

2022年度シラバス

科目名:体育特論Ⅰ	担当者:平野 朋枝	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
「体育特論Ⅰ」と「体育特論II」を通して、子どもの体力低下の現状を踏まえ、学校体育における課題を明確にするとともに、体育授業における指導内容の系統性について考える。
「体育特論Ⅰ」では、まず子どもの体力低下の現状と原因について、調査と意見交換を通して課題の整理を行う（DPに示されている専門知識に関連する）。また、教育現場での体育指導の見学を通して、学校体育の課題を検討する。その上で、体力向上を実現する体育授業のあり方を考える（DPに示されている汎用的思考力に関連する）。
なお、本授業では適宜、動画等を用いたメディアを利用し、課題提出にはMoodleなどのeラーニングシステムを活用する。

授業の到達目標
１、子どもの体力低下の現状を理解する。（DP：専門知識）
２、学校体育の課題を理解する。（DP：専門知識）
３、体力向上を実現するための指導計画を立案する。（DP：汎用的思考力）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
子どもの体力低下に関する関連資料等を収集し、読み込み、理解を深めておく。

評価方法
講義への主体的な参加態度・ディスカッションへの積極的なかかわり(30%)、提出物（30％）、実践活動（40％）

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	授業の概要、子どもの体力低下①
02	子どもの体力低下②（文献抄読）
03	子どもの体力低下③（文献抄読、教育現場の現状）
04	子どもの体力低下④（調べ学習の発表）
05	学校体育の課題①（文献抄読、教育現場の現状）
06	学校体育の課題②（授業見学）
07	学校体育の課題③（授業見学）
08	学校体育の課題④（現場での聞き取り）
09	学校体育の課題⑤（意見交換）
10	課題への対応策の検討①（グループ内討議）
11	課題への対応策の検討②（グループ間討議）
12	課題への対応策の検討③（まとめ）
13	指導計画作成
14	指導計画作成についての意見交換
15	まとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:体育特論Ⅱ	担当者:平野 朋枝	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
「体育特論Ⅰ」と「体育特論II」を通して、子どもの体力低下の現状を踏まえ、学校体育における課題を明確にするとともに、体育授業における指導内容の系統性について考える。
「体育特論II」では、「体育特論Ⅰ」で立案した授業計画の一部を実践し（DPに示されている専門知識及び汎用的思考力に関連する）、さらに現場の教師と意見交換することを通して、自分の指導力を高めるとともに、体力向上を実現する授業のあり方を考える（DPに示されている汎用的思考力に関連する）。
なお、本授業では適宜、動画等を用いたメディアを利用し、課題提出にはMoodleなどのeラーニングシステムを活用する。

授業の到達目標
１、指導計画に基づいた授業実践を行う。（DP：専門知識・汎用的思考力）
２、実践を振り返り、次の授業計画を立案する。（DP：汎用的思考力）
３、体力向上を実現する授業方法について自分なりの考えを持つ。（DP：汎用的思考力）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
体育科教育に関する資料等を収集し、読み込み、理解を深めておく。

評価方法
講義への主体的な参加態度・ディスカッションへの積極的なかかわり(30%)、提出物（30%）、発表（40%）

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「体育特論II」の履修には「体育特論Ⅰ」の単位取得を必要とする。

01	授業の概要、指導計画について
02	体育授業の実践例①（球技）
03	体育授業の実践例②（陸上運動）
04	体育授業の実践例③（ダンス）
05	指導計画の立案
06	指導計画についての意見交換
07	指導計画の修正
08	授業実践
09	授業実践の振り返り、改善策の検討
10	体育科教育に生かす運動生理学
11	体育科教育に生かす疫学
12	体育科教育に生かす運動方法学
13	体育科教育に生かす体育心理学
14	体育授業の意義
15	まとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:児童福祉特論Ⅰ	担当者:古畑 淳	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　児童の成長と発達の権利を保障するための制度や法システムについて研究する。授業では、国や自治体の児童福祉の政策動向の考察のほか、児童の人権を争点とする裁判事例の検討などを行う。　授業は、教員の講義、受講者のレポート報告（プレゼンテーション）、テーマ討論（グループディスカッション）、文献講読等を組み合わせて進めていく。【AL】

授業の到達目標
　①児童の成長と発達の権利を保障するための制度や法システム（以下「児童福祉の制度等」という）についての理解を深める（DP　専門知識）、②児童福祉の制度等を適切な文章で説明することのできる文章力を高める（DP　汎用的思考力）、③児童福祉の制度等の課題の解決に向けての考察力を深める（DP　汎用的思考力）、の３つの修得を到達目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　報告者は、指示した文献、裁判例を熟読した上でレポート報告レジュメを作成し、授業に臨むこと。　指示した文献、裁判例をよく読んで、知識の定着を図ること。

評価方法
　報告の準備内容（25%）、報告内容（25%）、討論への参加状況（25%）レポート試験（25%）で評価する。　レポート試験として、授業で取り上げたテーマについての6000字程度のレポートを求める。
　【レポート試験に対するフィードバックについて】
　レポート締め切り後に行われる授業等において、個々の院生に対して講評と指導を行う。

教科書	参考図書
社会福祉法令が掲載されている六法を授業で使用する。開講時に紹介する。	必要に応じて紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　質問等のある院生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。オフィスアワーの時間は初回授業で案内します。

01	ガイダンス
02	児童（子ども）の人権について
03	児童（子ども）の人権問題の現状
04	児童育成の責任主体（保護者の責任）
05	児童育成の責任主体（公的責任）
06	児童福祉サービスの体系の現状
07	児童福祉サービスの体系の課題
08	児童福祉の実施体制の現状
09	児童福祉の実施体制の課題
10	児童福祉サービスの供給主体の現状
11	児童福祉サービスの供給主体の課題
12	児童福祉サービスの規制監督の仕組み
13	児童福祉サービスの規制監督をめぐる課題
14	児童福祉サービスの利用手続の仕組み
15	児童福祉サービスの利用手続の課題
16	

2022年度シラバス

科目名:児童福祉特論Ⅱ	担当者:古畑 淳	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　児童の成長と発達の権利を保障するための制度や法システムについて研究する。授業では、国や自治体の児童福祉の政策動向の考察のほか、児童の人権を争点とする裁判事例の検討などを行う。　授業は、教員の講義、受講者のレポート報告（プレゼンテーション）、テーマ討論（グループディスカッション）、文献講読等を組み合わせて進めていく。【AL】

授業の到達目標
　①児童の成長と発達の権利を保障するための制度や法システム（以下「児童福祉の制度等」という）についての理解を深める（DP　専門知識）、②児童福祉の制度等を適切な文章で説明することのできる文章力を高める（DP　汎用的思考力）、③児童福祉の制度等の課題の解決に向けての考察力を深める（DP　汎用的思考力）、の３つの修得を到達目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　報告者は、指示した文献、裁判例を熟読した上でレポート報告レジュメを作成し、授業に臨むこと。　指示した文献、裁判例をよく読んで、知識の定着を図ること。

評価方法
　報告の準備内容（25%）、報告内容（25%）、討論への参加状況（25%）レポート試験（25%）で評価する。　レポート試験として、授業で取り上げたテーマについての6000字程度のレポートを求める。
　【レポート試験に対するフィードバックについて】
　レポート締め切り後に行われる授業等において、個々の院生に対して講評と指導を行う。

教科書	参考図書
社会福祉法令が掲載されている六法を授業で使用する。開講時に紹介する。	必要に応じて紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　質問等のある院生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。オフィスアワーの時間は初回授業で案内します。

01	ガイダンス
02	児童福祉の財政
03	児童福祉の費用負担
04	保育保障（制度改革の内容）
05	保育保障（制度改革の課題）
06	保育保障（自治体の保育政策）
07	保育保障（自治体の保育課題）
08	児童虐待の現状
09	児童虐待防止の課題
10	児童虐待と児童保護の法システム
11	児童虐待事例の法的検討
12	ひとり親家庭の福祉
13	ひとり親家庭の所得保障
14	児童の人権
15	児童の人権をめぐる裁判事例の検討
16	

2022年度シラバス

科目名:図画工作特論Ⅰ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:小学校教諭専修免許状の取得を目指す者が望ましい。		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
図画工作特講Ⅰでは、平成29年公示の小学校学習指導要領に基づき、改訂された図画工作教科書における題材研究と指導法について考察する。令和2年4月より完全実施された第8次改訂の小学校学習指導要領は、多様な社会の変化に主体的に関わる力や新たな価値の発見や創造するための力の育成を目指すものとして示されている。そこで本講では、表現の多様性を生み出す発想や構想の能力、知識・技能の育成に大きく関わる表現領域の題材に着目し体験的に学ぶ。

授業の到達目標
（１）図画工作科の題材研究を通して、教科目標や題材どうしのつながり、位置づけについて理解することができる（専門知識）。
（２）図画工作科の表現領域における材料・用具の指導における基礎を理解することができる（専門知識）。
（３）図画工作科の学習領域やICTを使った学習における今日的な指導課題について理解し、自分なりの考察をまとめることができる（汎用的能力）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・学習指導要領解説書や、学習領域に関わる指定論考を事前に読み、まとめておく。
・受講後に関連する資料を読み、考察をまとめる。
・最終講で発表を行うための資料を、講義ごとにPowerPointで作成する。

評価方法
講義への出席（10%）、最終的なプレゼン発表（60%）・関連資料（30%）の内容により、総合的に評価する。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　図画工作編（平成29年6月　文部科学省）	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・本講義では小学校で利用するタブレット、パソコン等を利用し、制作・資料の閲覧を行う。
・教材研究に関わる材料費は「図画工作特論Ⅱ」も同様に、個人負担とする。

01	ガイダンス（図画工作特論Ⅰの概要、指導スケジュール等）
02	KOMAKOMAアプリを使ったストップモーションアニメをつくる
03	SCRATCHを使ったプログラミングアート
04	「いろいろうつして」日文３・４年上の教材研究（スチレン版画）
05	「ほり進めて刷り重ねて」日文5・６年上の教材研究（ほりすすみ版画①）
06	「ほり進めて刷り重ねて」日文5・７年上の教材研究（ほりすすみ版画②）
07	「せんのかんじいいかんじ」開隆1・2年上の教材研究
08	「光のさしこむ絵」日文３・４年下の教材研究
09	「かみざらコロコロ」日文1・2年上の教材研究
10	「くしゃくしゃぎゅ」日文1・２年下の教材研究
11	「『小さな自分』のお気に入り」日文3・4年上の教材研究
12	「くぎうちとんとん」日文3・4年上の教材研究
13	「ミラクル！ミラーステージ１」日文5・6年上の教材研究
14	「ミラクル！ミラーステージ２」日文5・6年上の教材研究
15	発表・まとめ
16	

科目名:図画工作特論Ⅱ	担当者:淺野 卓司	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:小学校教諭専修免許状の取得を目指す者が望ましい。		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
図画工作特講Ⅱは、小学校図画工作の各学年の目標や内容を踏まえ、造形遊びをする活動・絵や立体、工作に表す活動・鑑賞活動において題材研究を行うことを目的とする。それぞれの学習領域の構成や活動の関連性を踏まえながら、材料や用具の基礎的な扱い方や指導上の留意点等について体験的に学ぶ。さらに、今日の指導課題である合科・教科横断型の指導やICTを用いた授業展開を目指し、様々な実践事例の収集を行うとともに多面的・多角的な教育評価の方法について理解する。

授業の到達目標
（１）図画工作科の題材研究を通して、教科目標や題材どうしのつながり、位置づけについて理解することができる（専門知識）。
（２）図画工作科の表現領域における材料・用具の指導における基礎を理解することができる（専門知識）。
（３）図画工作科の学習領域やICTを使った学習における今日的な指導課題について理解し、自分なりの考察をまとめることができる（汎用的能力）。
（４）図画工作科教育における今日的な課題を学び、様々な要因や具体的な改善策について検討をすることができる（専門知識）（汎用的能力）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・図画工作の様々な教育実践の事例収集を行うこと。
・指定された資料について事前に熟読しておくこと。
・本講義の最終講で発表を行うために、講義ごとのまとめをPowerPointで作成すること。

評価方法
講義への出席（10%）、レポート（60%）・発表（30%）の内容により、総合的に評価する。

教科書	参考図書
小学校学習指導要領解説　図画工作編	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・講義において小学校を想定したタブレット、パソコン等を利用し、資料の作成・閲覧を行う。

01	ガイダンス（図画工作特論Ⅱの概要、指導スケジュール等）
02	「切ってかき出しくっつけて」日文3・4年上の教材研究
03	「つけて、のばして、生まれる形」開隆3・4年下の教材研究
04	「今の気持ちを形に」開隆5・6年下の教材研究①
05	「今の気持ちを形に」開隆5・6年下の教材研究②
06	「糸のこの寄り道散歩」開隆5・6年上の教材研究①
07	「糸のこの寄り道散歩」開隆5・6年上の教材研究②
08	造形遊びの指導における諸課題について（「高学年の造形遊び」の視聴）
09	造形遊びの指導における諸課題について　討論
10	表現と鑑賞が一体となった活動の指導（「トントンギコギコ図工の時間」の視聴
11	表現と鑑賞が一体となった活動の指導　討論
12	絵に表す活動の特質と題材について（「絵を描く子ども」の視聴）と民間美術教育運動
13	絵に表す活動の特質と題材について　討論
14	図画工作における育成すべき資質・能力と学習評価のありかたについての考察
15	レポート発表と討論
16	

2022年度シラバス

科目名:特別支援教育特論Ⅰ	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 特別支援教育の概要とその動向について歴史的背景、教育課程と教育内容、教育制度や教育政策、障害児者福祉、教育権保障の視点から検討する。さらにインクルーシヴ教育の国際的な動向について検討を深める。
授業の到達目標 ①わが国の特別支援教育に関する専門知識(DP)を身につけることができる。②特別支援教育の動向を多方面から分析する汎用的思考力(DP)を身につけることができる。③インクルーシヴ教育の国際的な動向について理解することができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 準備学修としては特別支援教育に関連する基本文献を各自がレビューすること。事後学修としては障害児者に対し実践的にかかわる経験をできるだけ多く持つことが求められる。
評価方法 授業内の発言（20%）、プレゼンテーション（20%）、学期末レポート（60%）で総合的に評価する。 授業の最後にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業中にレジュメを配布する。	授業中に紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 受講するにあたって特別支援教育に対する「問い」や「疑問」を持ち寄っていただきたい。その答えや解決への道筋をみなさんとともに授業の中で追及していきたい。

01	障害の概念
02	障害者の歴史と教育
03	障害者福祉の発展と障害児の教育問題
04	ノーマライゼーションとリハビリテーション
05	自立生活運動の広がりと特殊教育
06	ICFが教育に与えた影響
07	21世紀における障害者制度改革
08	特殊教育から特別支援教育へ
09	学習指導要領（特別支援教育）の概要
10	特別支援教育における特色ある教育課程
11	特別支援教育におけるキャリア支援
12	特別支援教育と教育者に求められる専門性
13	特別支援教育を取り巻く世界の状況
14	イギリスにおけるインクルーシヴ教育
15	特別支援教育の課題
16	なし

2022年度シラバス

科目名:特別支援教育特論Ⅱ	担当者:柏倉 秀克	開講学科等	大学院(人間)
		授業形態	講義
免許・資格:幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 特別支援教育制度とカリキュラムの現状について概説する。さらに障害種別ごとに必要とされる特別支援教育の基本的な理念や教育方法の概要について解説する。
授業の到達目標 ①わが国の特別支援教育に関する専門知識（DP）を身につけることができる。②特別支援教育の動向を多方面から分析する汎用的思考力（DP）を身につけることができる。③インクルーシヴ教育の国際的な動向について理解することができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 準備学修としては特別支援教育に関連する基本文献を各自がレビューすること。事後学修としては障害児者に対し実践的にかかわる経験をできるだけ多く持つことが求められる。
評価方法 授業内の発言（20%）、プレゼンテーション（20%）、学期末レポート（60%）で総合的に評価する。 授業の最後にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業中にレジュメを配布する。	授業中に紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 受講するにあたって特別支援教育に対する「問い」や「疑問」を持ち寄っていただきたい。その答えや解決への道筋をみなさんとともに授業の中で追及していきたい。

01	特別支援教育制度
02	特別支援教育の場
03	特別支援教育のカリキュラム
04	視覚障害教育の理念と概要
05	視覚障害教育の現状
06	聴覚障害教育の理念と概要
07	聴覚障害教育の現状
08	知的障害教育の理念と概要
09	知的障害教育の現状
10	肢体不自由教育の理念と概要
11	肢体不自由教育の現状
12	病弱教育の理念と概要
13	病弱教育の現状
14	発達障害教育の理念と概要、現状
15	特別支援教育と関連社会資源との連携
16	なし